



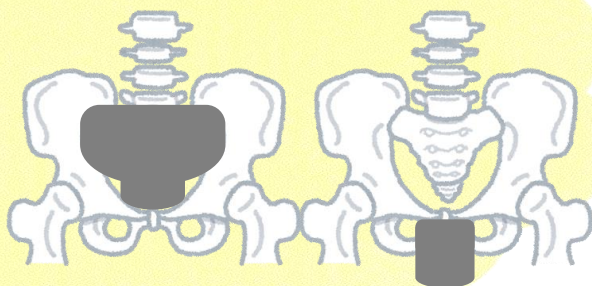
単純X線(レントゲン)撮影時の 生殖腺防護を廃止します

国際的な研究からレントゲン撮影時に生殖腺を防護するメリットがとても少ないことがわかり、海外では生殖腺防護を廃止する勧告が出されています。日本でも検討を重ねた結果、レントゲン撮影時の生殖腺防護廃止を推進する声明※1がだされました。このことを受け当院でも鉛シールドを用いた生殖腺防護を原則行わないことを決定しました。

※1 日本医学放射線学会,日本放射線科専門医会・医会,
日本放射線技術学会,日本放射線技師会による共同声明

鉛シールドによる生殖腺防護のデメリット

- ・ 病変部に遮蔽具が重なる可能性がある
- ・ 女児の卵巣の位置は様々であり
完全に遮蔽することは困難
- ・ 自動露出制御機能(十分な放射線量を
決める機能)が使えない



X線撮影装置の性能が向上し、低線量で撮影できるようになりました。
様々な研究や調査により、生殖腺の放射線感受性は
以前の推定よりも遥かに低いことがわかりました。

生殖腺防護を廃止することで
骨盤部の解剖学的情報が多く得られます

🌸 ご不明な点等ございましたら、1F 放射線受付へお声がけください 🌸